

聖書:ルカの福音書19章1~10節

説教:ザアカイ、急いで降りて来なさい

はじめに

前回のおさらいをしてから今日の箇所に入ります。イエスがエリコの町に向かわれたときのことで、町の近くで道端に座りながら物乞いをしていた盲人はイエスがそばを通りかかると知って、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と叫び、これを聞かれたイエスはこの盲人を呼び寄せ、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました」と言ったところ、直ちに目が見えるようになり、この盲人は神をあがめながらイエスについて行く。

そのようなことがあってからイエスはエリコの町に入られ、ザアカイが救われていきます。これまでルカの福音書は難しいという印象が続いていましたが、それに比べればこの箇所は実にわかりやすいと感じられるでしょう。改めて説明してもらわなくてもよいくらい。でも、聖書は神のことばです。私たちが罪から救われるために、さまざまな知恵を用いて語ります。ここにも驚くような巧妙な仕掛けがあります。それは何か、これから一緒に考えてまいります。

1 ザアカイ

1) エリコに住む取税人のかしら

きょうの登場人物であるザアカイは、取税人のかしらで金持ちであったと紹介されています。取税人については、これまでたびたび取り上げてまいりました。ローマ帝国の手先となって同胞のイスラエル人から税金を取り立てる役目です。集められた税金はすべてローマ帝国に送られ、自分たちの町のために使われることは一切ない。そんな税金はだれも払いたくないわけですから、普通的手段では集まらない。そこで取税人と呼ばれる人たちが税金を集めることになった。普通ならこんな仕事はだれもしたがりないはず。それなのになぜするか。単純です。もうかるからです。集めた税金をピンハネして自分の懐に入れるのをローマ帝国は黙認していた。ザアカイが金持ちだったのはそのため。当然、同胞のイスラエル人からは売国奴と呼ばれて憎まれ、彼らは神にそむく罪人であるというレッテルを貼られ、だれも口を利いてくれない。そういう人たちでした。

2) いちじく桑の木に登る

ザアカイが取税人になったのには、やむにやまれないようなそれなりの事情が過去にあったのかもしれませんが。いずれにせよ、ザアカイは金持ちになりました。では彼はそれで幸せだったのか。お金は手に入りましたが、町の人たちはだれも相手にしてくれない。それに彼自身が告白していますが、脅迫まがいのようなことまでしてお金を取り立てていたことに、後ろめたさを感じ、心のどこかが疼いていたようです。そんなとき、イエスという名の人物がエリコの町に入って来られる。ザアカイは以前からイエスの名は耳にしていたでしょう。悪霊を追い出し、病人を癒やし、罪人と呼ばれる者の罪を赦される。エリコの町に入る直前には、盲人の目が開かれた。そんなうわさを聞きながら、ザアカイはこのイエスに強い関心を持つようになります。一目イエスという人物を見たい。けれども背が低くて見るができない。そうだ、あのいちじく桑に登ればイエスを上から見るができる。

以前、イスラエルに行かせていただいたとき、ザアカイが登ったという木を見てきました。本当ならば樹齢は二千年以上あるわけ。見ると枝が横に十メートル以上は伸びていて、その枝に大きな葉が生い茂っていたのが印象的でした。

2 イエス

1) 名を呼ぶ

ザアカイは小さなからだを木の葉に隠し、これでだれにも気づかれなかった。ところが5節。「イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。』」

偶然見つけたのではありません。ザアカイの名前を正しく呼ぶくらいですから、最初から木の上にいることをご存じだった。これにはザアカイも驚く。

2) 「急いで降りて来なさい」

そんなザアカイにイエスはこう続ける。「急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

何気なく読み飛ばしてしまいそうですが、ここに大切なことが込められています。というのは、6

節でも「ザアカイは急いで降りて来て」とあって、同じことばが繰り返されているから。いつも言いますが、聖書で短い箇所と同じ表現が繰り返されるのには、何かの意味があると考えます。ではそれはなにか。ここだけ見てもよくわかりません。もう少し先に進んでからもう一度考えてみます。

3) 「泊まることにしているから」

イエスは続けてこう語っています。「わたしは今日、あなたの家に泊まることにしてあるから。」

ザアカイは、イエスからこのようなことを聞かされるとはまったく予想もしていません。どうして他の家ではなく、自分の家なのか。ザアカイは金持ちなので、おいしいごちそうを出してくれるだろうと期待したのか？そんなはずはない。ここにも何か理由がありそうです。ヒントはこの町がエリコであったということにあります。

前回少しだけ触れたのですが、エリコと言えば、イスラエル人ならだれもがすぐに思い起こすエピソードがあります。イエスの時代からさかのぼることおよそ千四百年、ヨシュアの時代のこと。ヨシュアはヨルダン川を渡って、約束の地を目指そうとしたときエリコが目の前に立ち塞がり、前に進めない。でも、不思議な神の奇蹟により七日目の朝に城壁は崩れ落ち、エリコは陥落する。そのとき、エリコの町に住んでいた者たちの中から救われた家族がありました。ヨシュアはエリコを攻め込む前に中の様子を探らせるために偵察隊を送ったのですが、その二人の偵察隊を自分の宿に泊めたのが、ラハブと呼ばれる遊女でした。エリコ警察は、イスラエルのスパイが潜り込んできたと気づき、ラハブに尋問するのですが、そのときラハブは機転を利かせて、ふたりの斥候を無事に逃すことに成功します。そのとき、ラハブはこんなお願いをするのです。ヨシュア記2章13節。「今、主にかけて私に誓ってください。私はあなたがたに誠意を尽くしたのですから、あなたがたもまた、私の父の家に誠意を尽くし、私に確かなしるしを与え、私の父、母、兄弟、姉妹、また、これに属するものをすべて生かして、私たちのいのちを死から救い出す、と誓ってください。」ヨシュアはこれを聞き、約束どおりラハブの家の者たちを救い出します。

今ラハブの身に起きたことを話しました。ザアカイと比べてみてください。ラハブもザアカイも、どちらもエリコで罪人と呼ばれていた人たち。ラハブが偵察隊を泊めたことで、ラハブの家が救われました。ザアカイが自分の家にイエスを泊めること

で、ザアカイの家に救いが来る。これは偶然でしょうか。そうではありません。イエスはなんと言いましたか。10節。「人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

イエスはザアカイをエリコの町に探し出し、救いをもたらします。

3 十字架

1) 横：木のそばを通り過ぎる

このように見てくると、ザアカイが救われていったのは、単なる偶然ではなく、ヨシュア記にまでさかのぼるほどに神の救いの計画だった。その計画を成就するために、イエスは失われていたザアカイを積極的に探し出していた。そのように見ることができます。

さて、このことを確認してから、先ほどわきに置いてた問題に立ち戻ります。イエスがザアカイに語ったことば。「急いで降りて来なさい。」この場面は偶然ではありません。すべてが綿密に計画されていた出来事です。そこでわかりやすいように、皆さんの頭の中にこんな舞台を想像してみてください。この舞台の真ん中には大きないちじく桑の木が立っています。いちじく桑の木がどんな木か分からなければ、円山公園にあるような大きな木でもよい。その木の上に今ザアカイが登りました。そうしたら間もなく、舞台の右からイエスが現れ、真ん中に立っている木の根元に来て立ち止まり、上を見上げ、ザアカイを呼びます。ザアカイはすぐに木の上から降りて来て、イエスを自分の家にお連れするために、木の根元から左の方向に移動して舞台の袖から消えていく。ここで注目していただきたいのは、イエスが右から左に横方向に移動する。そのイメージです。

2) 縦：木の上と下

そのことを頭に描いてから、次にイメージしていただきたいのは、ザアカイが木の上から根元に降りていく場面です。先ほどは横方向の移動でしたが、今度は縦方向の移動です。いちじく桑の木を巡って描かれる横と縦の移動。さあ、なにをイメージしますか。十字架です。まさかと思ったでしょうか。でもそう考えるとすべてのことが説明がつくのです。

なぜイエスは「急いで降りて来なさい」と言わなければならないなかったのか。それに続いて「ザアカイが急いで降りて来た」と、わざわざ書いてあるのか。

3) 木に登るイエス

十字架の木に登ったのはだれでしょうか。もちろんイエスです。私たちを罪から救うために十字架にかけられたのはただお一人イエスだけです。十字架には神のひとり子であるイエス・キリストだけがかかるのであり、他の者は絶対にかかってはなりません。それほど場所。あのいちじく桑の木、イエスの目には、十字架の象徴に見えています。その十字架にザアカイが登っている。そんなことはあつてはならないのです。だから「急いで降りて来なさい」と言われる。ザアカイ、あなたは登ってはならない。その代わりに、わたしが十字架に登る。あなたの罪は赦されているのだから、もうさばかれることは絶対はない。だから急いで降りて来なさい。

私たちは、さまざまな苦しみを背負って生きています。こうなったのは自分のせいだと言って自分を責め続け、苦しんでいる人がいます。ああなったのは、お前の責任だと言われ、でももう取り返しがつかないところで苦しんでいる人たちもいます。イエスの目からご覧になるなら、私たちは自分を十字架につけようとしている、そのように見えています。しかし主は言われる。「急いで降りて来なさい。」あなたは十字架についてはならない。わたしがあなたの代わりに十字架につくのだから。主は私たちの名を呼びながらこのように語り、私たちを救おうとされています。

主の御名をあがめます。